

日本鐵鋼協會記事

第1回理事會 昭和7年4月13日(水)午後5時開會 出席者 河村 駿君、俵 國一君、水谷叔彦君、渡邊三郎君、今泉嘉一郎君、服部 漸君、三島德七君、開會前河村會長、水谷理事の新任の挨拶ありて直に議事に入

協議事項 1) 商工省規格統一調査會より照會の「鐵及鋼バナヂウム分析方法規格案」の審議 2) 本會第9回講演大會に關する件(順序概要決定) 3) 第7回研究部會に關する件(議題 a. 第3回銑鐵部 粉鐵燒結法に就て(團鐵法を含む) b. 第3回製鋼部會 鋼塊及鑄型に就て) 4) 入退會者承認及會員異動に關する件 5) 理事職務分擔に關する件、(庶務及會計擔當 水谷理事、松下理事、室井委員、編輯及講演擔當 俵理事、渡邊理事、三島委員) 6) 香村博士より資金寄贈に關する件 7) 第1回評議員會開催に關する件(期日4月19日(火)午後5時より香村博士寄贈資金取扱に關する件) 8) 編輯委員田村宣武君は大阪工廠鐵材製造所長に榮轉に付辭任を承諾 9) 其他會計報告並會務に關する諸件等にして午後8時30分閉會す

第1回評議員會 場所 日本鐵鋼協會事務所 時日 昭和7年4月19日午後5時開會 出席者 河村 駿君、俵 國一君、渡邊三郎君、香村小録君、鹽田泰介君、井上禱之助君、井上匡四郎君、岩瀬德藏君、桂 弁三君、堤 正義君、向井哲吉君、島岡亮太郎君

1、議事 香村博士寄贈資金取扱に關する件(別記の通り取扱規則を議決す)。

1、報告事項 a. 過日理事會に於て假決定を爲せる第9回講演大會細目に關し報告 b. 其他會務に關する件

別記 香村博士より河村會長宛書翰 今般小生より社團法人日本鐵鋼協會資金の内へ帝國五分利公債額面金2萬圓也寄贈致度候間御受納相成度願上候

追て添付の希望條件御斟酌の上可然御取計被下候はゞ幸甚の至りに存候

昭和7年4月11日 香村小録

社團法人日本鐵鋼協會々長 河村 駿殿

添附希望條件

一、本資金の一部は帝國公債として永く之を保存し其の利子の一部或は全部を以て鐵鋼の理論又は作業に關する有益なる發見發明或は新案を得たる學者技術者又は職夫を獎勵又は表彰すること

二、前項の保存金額は第三項に掲ぐる支出の爲め時宜に依り之を變更することあるも一定の最少限度以内に減額せきること

三、前項に掲ぐる保存金以外の資金及第一項に掲ぐる使途以外の利子は社團法人日本鐵鋼協會の目的達成上適切有效と認めらるゝ事柄に向つて適宜之を支出すること

四、本資金の管理、支出其他一切の處置に就きては社團法人日本鐵鋼協會理事會の立案に基き同評議員會の議を経て之を決定すること

五、第一項に依り獎勵又は表彰せらるべき候補者の詮衡に就きては理事會に於て適當の方法に依りて之を行ひ評議員會の議を経て其の選定を決すること

日本鐵鋼協會香村博士寄贈資金取扱規則

第一條 本會ハ本規則ノ定ムル處ニ依リ 香村博士寄贈資金帝國五分利公債額面金2萬圓ノ取扱ニ關シ寄贈者ノ申出ニ係ハル次記希望條件ヲ實施スルモノトス

一、本資金ノ一部ハ帝國公債トシテ永ク之ヲ保存シ其利子ノ一部或ハ全部ヲ以テ鐵鋼ノ理論又ハ作業ニ關スル有益ナル發見、發明或ハ新案ヲ得タル學者、技術者又ハ職夫ヲ獎勵又ハ表彰スルコト

二、前項ノ保存金額ハ第三項ニ掲クル支出ノ爲メ時宜ニ依リ之ヲ變更スル事アルモ一定ノ最少限度以内ニ減額セサルコト

三、前項ニ掲クル保存金以外ノ資金及第一項ニ掲クル使途以外ノ利子ハ社團法人日本鐵鋼協會ノ目的達成上適切有效ト認メラル、事柄ニ向ツテ適宜之ヲ支出スルコト

四、本資金ノ管理、支出其他一切ノ處置ニ就キテハ社團法人日本鐵鋼協會理事會ノ立案ニ基キ同評議員會ノ議ヲ經テ之ヲ決定スルコト

五、第一項ニ依リ獎勵又ハ表彰セラルヘキ候補者ノ詮衡ニ就キテハ理事會ニ於テ適當ノ方法ニ依リテ之ヲ行ヒ評議員會ノ議ヲ經テ其選定ヲ決スルコト

第二條 香村博士寄贈ニ係ハル帝國五分利公債額面金貳萬圓ノ内額面金五千圓ハ之ヲ確實ナル信託會社ニ信託シ又ハ銀行ニ保管ヲ依頼シテ永久ニ保存シ其ノ利子ノミヲ使用スヘキモノトス

以上ノ公債ニシテ償還期限ニ達シタル時ハ其都度同種ノ公債ヲ購入シテ之ヲ補充スルモノトス

第三條 前條ノ永久保存資金ヨリ生ズル利子ヲ以テ次ノ事業ヲ行フ

一、香村賞牌ノ授與

第四條 香村賞牌ハ鐵鋼ノ理論又ハ作業ニ關スル有益ナル發見、發明或ハ新案ヲ得タル學者、技術者、又ハ職夫ヲ表彰スル爲メ授與スルモノトス

第五條 香村賞牌ハ本會總會若シクハ講演大會開催ノ機會ニ於テ毎年一回之ヲ授與スルヲ原則トス

第六條 本會役員(理事及評議員ヲ總稱ス)ニシテ香村賞牌授與候補者ノ推薦ヲナサントスル時ハ其理由ヲ附シテ之ヲ本會ニ提議スルモノトス

第七條 本會理事會ハ豫メ候補者ノ資格ヲ審査シ評議員會ノ決議ニ依リ受領者ヲ選定スルモノトス

第八條 前條ノ議決ハ出席總員ノ四分ノ三以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第九條 第二條ニ掲クル永久保存資金以外ノ資金並ニ之ヨリ生ズル利子及第三條ニ掲クル用途以外ノ利子ハ社團法人日本鐵鋼協會ノ目的達成上適切有效ト認メラル、事柄ニ就キ豫メ理事會ニ於テ審議ノ上評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ支出スルモノトス

第十條 前條ノ運用ニ殘額ヲ生ジタル時ハ之ヲ銀行預金トシテ利殖シ將來同一目的ノ運用資金ニ充當スルモノトス

第十一條 本會寄贈資金ノ收支ハ毎年一回之ヲ本會通常總會ニ報告シ日本鐵鋼協會々誌「鐵と鋼」ニ掲載スルモノトス

第十二條 本規則ハ時宜ニ應シ理事會及評議員會ノ議ヲ經テ第一條ニ掲クル寄贈者ノ希望條件ノ精神ニ反セサル範圍ニ於テ之ヲ更改スルコトヲ得ルモノトス
以上ヲ決議シ午後八時閉會セリ

編輯委員會 昭和7年4月2日(土) 今回は大會準備打合せの爲め午後2時より帝國大學冶金學三島博士教室に集合セリ 出席者 三島徳七君、池田正二君、石入會者承認

原善雄君、室井嘉治馬君、鹽澤正一君、山田良之助君、田村宣武君、廣瀬政次君外大會補助者4名。以上にして部會の擔當を決定し講演會場の實査を了し本會事務所に歸所セリ 午後5時より編輯に關する協議を開く 出席者 池田正二君 石原善雄君、室井嘉治馬君、山田良之助君、鹽澤正一君、廣瀬政次君、協議事項 鐵と鋼第18年第5號上梓原稿選定の件

選定論文

- 1、彎曲作用を受ける鑄鐵梁の理論及實驗 藤井忠二
- 2、窒素硬化鋼の炭素量の窒素硬化に及ぼす影響 石澤命知
- 3、金屬並に合金の折口の型式に就て 飯高一郎

以上にして午後8時30分閉會セリ 前同評議員會(3月7日)に於て決議の發表洩れの件

1、本會定款施行細則改正、下記の通り第一條中「賛助會員」の前に「名譽會員、維持會員」を挿入する事を全員一致を以て議決セリ、即ち次記の通り

第一條 正會員タラント欲スル者ハ正會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書ニ做ヒ本會ニ申込ムベシ
准會員タラント欲スル者ハ正會員一名以上ノ紹介ヲ以テ申込書ニ做ヒ本會ニ申込ムベシ
名譽會員、維持會員、賛助會員ハ正會員ヲ兼ヌルコトヲ得、但シ規定ノ會費ヲ納ムルコトヲ要セス

第二回工學會大會 4月5日より9日に亘り豫てより發表のプログラムの通り完全に舉行され出席總員4,000餘名にして最も盛況裡に終了セリ、部會大記の通り

日本鐵鋼協會第八回講演大會(第二回工學會大會部會)4月6日、7日兩日共午前9時より東京帝國大學文學部第二十九號教室にて開會し最も有益なる講演28題を演了セリ、毎日出席者250餘名ありて盛況を呈したり。茲に講演者各位に對し厚謝すると同時に講演者を御派遣の各位に深甚の謝意を呈する次第なり。

入會承認濟

居所又宛名先	職業及勤務先	會員別	入會者氏名	紹介者
南滿洲本溪湖河西町	工學士 本溪湖煤鐵公司技師	正	荒木利恭君	島岡亮太郎
大阪市港區船町五番地	中山悅治商店取締役社長	正(終)	中山悅治君	岩瀬徳一
麴町區丸ノ内三ノ二、中村特許事務所(丸ノ内一九三〇)	工學士	正	山中政吉君	河村島徳七
深川區越中島町、戸畑鑄物會社東京工場	"	正	木村庶幾君	村松橋太郎
大阪市港區船町五番地、中山薄鐵板工場	中山薄鐵板工場技師	正	山崎良太郎君	田代悦治
名古屋市南區大江町七、三菱名古屋航空機製作所	"	准	河口虎夫君	石澤命知
南滿洲本溪湖煤鐵公司製鐵科	"	"	林有記君	井門文三
熊本市野砲兵第六聯隊	工學士	"	下村佳夫君	田中清治

麴町區上六番町二三	工學士	准	小 津 悌 二君	田 中 清 治
市外澁谷町原一七(高輪七四四七)	東京帝大冶金學生	〃	栗 山 俊 治君	俵 國 一
芝區神明町七三	〃	〃	日 野 健 三 郎君	田 中 清 治
小石川區高田豐川町四三	〃	〃	上 島 大 助君	三 島 德 七
本郷區追分町三一風間方	〃	〃	鈴 木 甫 君	田 中 清 治
小石川區宮下町	工學士 理化學研究所	〃	渡 邊 俊 平君	俵 國 一
福岡縣八幡市鬼ヶ原官舎四	製鐵所工作部ロール課	〃	田 中 太 一君	景 山 齊 君
大阪浪速區西園手町一〇二五	京都帝大冶金學生	〃	西 川 政 一君	西 村 秀 雄

退 會 者 承 認 濟

正會員 中根一二 岡山貞吉 關川貞雄
准會員 戸田荒吉

死 亡 者

正會員 末廣恭二君 准會員 千葉忠一郎君 の
逝去の訃に接し洵に哀悼の至りなり茲に謹んで申
意を表す。

社 團 法 人 日 本 鐵 鋼 協 會 第 十 七 回 通 常 總 會

日 時 昭和 7 年 4 月 6 日 (水) 午後正 1 時開會
會 場 東京市本郷區本富士町一番地
東京帝國大學文學部第二十九號教室
出席會員總數..... 232 名

議 題

- イ、昭和 6 年度會務報
 - ロ、昭和 6 年度收支決算報告
 - ハ、昭和 7 年度收支豫算
 - ニ、任期滿了役員改選
 - ホ、資産總額變更の件
- (以下速記)

1、挨拶 社團法人日本鐵鋼協會々長理事

工學博士 俵 國 一君

それでは是から通常總會を開きますが、「其前に私から一寸挨拶を申し上げます、此度第八回の講演大會に於きまして大勢御集りになり、又本會の第十七回通常總會を今日開くに付きまして、斯く多數會員の御出席下さいましたことを理事者と致しまして厚く御禮を申し述べる次第であります、尙今明日等に於きましては見學等もあることありますから、それらにも充分出席され見學なされむことを御願ひする次第であります、例年の通りに私から昨年度の鐵鋼の概況に付きまして一寸申上げて置きます、是は商工省の鑛山局の足立技師が色々調査せられましたものを下さいましたので、それに基きまして私は數分間簡単に述べて置く次第で

あります、何れ會誌に私の名前を以て印刷をせやうと思つて居りますから、詳しい事は會誌の方で御覽を願ひたいと思ふのであります、製鐵事業の趨勢に付きましては、昨年の本會の第七回講演會に於きますところの高博士から御述べになりましたし、又昨日の工學大會では今泉博士が本會を代表されて其事に付きまして色々御話になりました、それでありまして私の申上げやうと思ひます事は、昨年即ち昭和六年のことに付きまして極く簡単に申し述べる考であります、昨年の製鐵事業の生産高を一昨々年の昭和四年度と比較しまして統計を取つて見ますと云ふと、世界に於きまして著しく悪いのでありまして、約半分位しか日本に鐵鋼が生産して居らぬのであります、其中でも諸外國に之を分けて申しますと云ふと、昨年詰り昭和六年の生産高は昭和四年に較べまして英、米、獨何れも 5 割以下になつて居るのであります、唯佛蘭西邊りが 8 割見當になつて居るのであります、我が日本は比較的良い方で、困つては居られますが、其生産高に於きましては 8 割以上になつて居るやうな譯であります、それから鋼等に付きましては略々同様の趨勢を持つて居る次第であります、殊に本邦に於きます銑鐵に付きましては、是は諸君も御承知の通りに年を逐うて不況になつては居りますが、特に昨年の九月末の英吉利の金輸出が禁止せられましたからはルーブルの値段が著しく下がりました、此銑鐵の値段に於きましては著しく其

爲に影響を受けたやうな次第であるのであります、左様にルーブルの値下がりと云ふものは著しいものでありまして、平時に較べまして5割位のものが下がつて居るやうな譯であります、是が直ぐに銑鐵の方に響いて來ました爲に、昨年一月頃は銑鐵の1 噸平均値が30 圓位と申しますものが十月頃になりますと1 噸平均の値が23 圓70 錢位になり、又十一月十二月に於きましてもそれと同様な譯でありまして、其爲に日本の製鐵業者と致しましては著しく御困りになつたことと思ふ次第であるのであります、而も其爲に印度に於ける生産の銑鐵の輸入も昨年は15 萬噸ばかりでありまして、之を昭和四年に較べて見ますと著しく半分以上に下がつて居るやうな次第であります、又鋼の方に付きましては東洋市場に於て鋼のベース物の市價が段々現在に於ては下がつて居りますが、銑鐵の如きも英吉利の金輸出禁止に依りまして漸次段々値段が下がつて來て居る状況であります、而して鋼材其他色々のものに於きましては内地の製鋼業者は輸入される主なるものに付きましては段々補充をされて居りますやうな次第でありまして、殊に増産いたしましたものはブラック・シート、線材などがありますが、其中でも線材などは4割4分も増し、ブラックシートは2割4分、又シートなどに付きましては約倍以上になつて居るやうな有様であります、又一方に於きまして多少鋼材の減産いたしましたものは棒鋼、軌條、鋼管等は少いもので2割多いもので6割も減つて居るやうな有様であります、要するに全體に付きまして、本邦に於きまする需要高を計算いたして見ますと、昭和6年の鋼材の需要總額は約169 萬噸、斯う云ふ高になつて居るのであります、昭和四年に較べて見ますと約6割5分に當る、斯う云ふやうに計算されて居る次第であります、兎に角昨年度は英吉利の金輸出禁止及び12月になりまして日本の再禁止等がありました爲にそれが響いて來まして、其關係で色々相場等に變動がありました爲に日本に其影響が多かつた次第あります、尙詳しい事は會誌の方で申上げること致しますから大體以上で御諒察を願ふ次第であります、是で挨拶は済まして第一の議事に移りたいと思ひます。(俵會長議長席に移る)

議 事

昭和六年度會務報告

(自昭和6年3月1日至同7年2月29日)

1、集 會

通常總會 1 回、理事會 10 回、評議員會 1 回、服部博士記念資金委員會 1 回、編輯委員會 16 回

2、會員異動

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
入會者	—	—	—	26	61	87
退會者	—	—	—	57	50	107
死亡者	—	—	—	10	3	13
差 引	—	—	—	減 41	增 8	減 33
備 考						

イ、死亡者氏名

正會員 岡本貫一君、塚本外三郎君、辰己英一君、米倉清族君、内田徳郎君、中島辰一君、小方嘉一郎君、飯島健君、山野好恭君、原田鎮治君

准會員 有働重斌君、益森榮治君、石川榮太郎君、以上會員 13 氏を喪ひたるは痛惜の至りなり、猶ほ以上諸氏の訃に接しては直ちに弔詞を呈し哀悼の意を表せり

ロ、改姓名者..... 2 名

ハ、准會員より正會員に變更の方..... 21 名

3、會員總數

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
昭和7年2月29日現在	9	26	19	718	586	1,358
前年同 期 比 較	—	(44口)	—	減 41	增 8	減 33

4、會誌及印刷物の刊行

イ、本會々誌「鐵と鋼」は第十七年第三號より第十八年第二號迄毎月發行せり

ロ、「日本鐵鋼協會第六、第七回講演大會講演大要」を其都度作製し出席會員に配布せり

ハ、商工省鑛山局編纂「製鐵業參考資料」(昭和六年六月調査)を一回發行し「鐵と鋼」第十七年第九號に附録とし其他希望者に賞費を以て分讓せり

5、處 務 事 項

イ、第十六回通常總會に於て本會定款中第三章第十五條、十六條、十七條、第五章第二十三條を改正し役員任期及總會開會期の變更を決定せり

ロ、日本工學會に於て工業用語調査會を設くる爲め本會より次の二氏を委員に推薦せり

室井嘉治馬君、田中清治君

ハ、日本工學會に於て第二回工學大會を舉行するに付き準備委員として本會より次の二氏を推薦せり

三島徳七君、鹽澤正一君

ニ、編輯委員辭任及委囑 編輯委員中 川上義弘君は名古屋へ轉任、海老原敬吉君は外遊の故を以て退任せられたるに付き次の二氏を新に委囑せり

陸軍砲工學校教官砲兵少佐工學士 田村宣武君

東京工業大學教授 工學博士 山田良之助君
ホ、本會機關誌「鐵と鋼」内容中論文以外を六號 活字と
改めたり

へ、事務員増員 事務員 前田テルを採用せり

6、調 査 事 項

イ、商工省臨時産業合理局工業品規格統一調査會より
照會の次の事項に就ては審議の上其都度回答せり
照會事項

- 1、鐵及鋼ニツケル分析方法規格案
- 2、" クロム "
- 3、" タングステン "
- 3、" モリブデン "

5、鑄鐵品規格案に付ては本會第五回研究部會第二
回鑄物部會を開き斯業關係者多數を委員に推薦
し討議の結果「日本鐵鋼協會第二回鑄物部會報
告」を作製し規格統一調査會其部委員へ配布せ
り（鐵と鋼第十七年第八號参照）

ロ、研究部會

本年度に於て開會の研究部會次の如し

第五回研究部會

第一回砂鐵部會 砂鐵の還元に就て（掲載済）

第二回鑄物部會 鑄鐵品規格に就て（"）

第六回研究部會

第二回砂鐵部會 砂鐵製鍊に關する技術的、經
濟的問題に就て今後進むべき
方針

第二回銑鐵部會 熔鐵爐瓦斯の除塵に就きて

第二回製鋼部會 平爐作業中蓄熱室に關する件

（備考、第六回研究部會報告は追て會誌に上掲
するものとす）

7、表 彰

イ、獨逸國鐵鋼協會主事ドクトル・オットー・ペテルセ
ン氏在職二十五年祝賀會に際し本會より在獨會員佐
々木吉備三郎君を介し祝賀狀を呈したり。

ロ、服部博士記念資金取扱規則に基き昭和七年度受賞
者を推薦せり。

賞牌受領者 一名 } 別冊「服部賞牌並賞金受領者
賞金受領者 七名 } 推薦理由書」参照

8、圖書寄贈を受けたる總數

本年度に於て圖書の寄贈を受けたる總數 250部

9、講 演 會

本年度に於て開催せる講演會は東京に於て 第六回講演
大會一回、八幡市に於て第七回講演 大會一回の二回に
して其講演題目及び講演者氏名次の如し

第六回講演大會

- 1) 開會の辭 昭和五年中製鐵鋼業の趨勢
東京帝國大學教授 工學博士 俵 國 一君
日本鐵鋼協會々長
- 2) 古代エヂプトに於ける金屬合金の加工
大阪工業大學講師 戸 波 親 平君
- 3) 鑄鐵の凝固時に於ける瓦斯と黒鉛組織
東京帝國大學助教授 工學士 田 中 清 治君
- 4) 鐵、セメント、硫化鐵系平衡狀態圖に就て
東京帝國大學助教授 工學士 佐 藤 知 雄君
- 5) 鐵鋼中コバルトの存在に於けるニツケルの定
量法 陸軍科學研 工學士 金 子 吉 雄君
究所々員
- 6) 海水に對して不銹性なる新輕合金クルミンに
就て 三菱造船株式 工學博士 飯 高 一 郎君
會社研究所員
- 7) アルミニウム輕合金に及ぼす種々の改良劑
の影響に就て
神戸製鋼所技師 工學士 伊 丹 榮 一 郎君
- 8) 酸化チタンの還元
東京帝國大學砂鐵研究室 梅 津 七 藏君
- 9) アルミニウム含有鑄鐵鑄造作業の困難に
對し化學的見地よりの熱力學的考察
三菱造船株式會社 深 川 庫 造君
研究所員 理學博士
- 10) 低珪素銑製造法の研究に就て
製鐵所技師 銑鑄課長 工學士 平 川 良 彦君
- 11) 砂鐵及酸化鐵石の接觸的還元
東北帝國大學教授 金屬 岩 瀬 慶 三君
材料研究所員 理學博士
- 12) 久慈海綿鐵よりバナヂウム鋼の製造
大阪工業試驗所々員 工學士 上 野 建 二 郎君
- 13) 最近の鐵鑄物を論じ各地銑鐵に對する批判
選擇に及ぶ
三菱造船株式會社 百 々 初 男君
神戸造船所技師
- 14) 窒化鐵に含まるる原子狀水素に就て
三菱造船株式會社 佐 藤 俊 一君
研究所員 理學士
- 15) 鋼材の白點に就て
日本製鋼所室蘭 堀 江 鐵 男君
工場技師 工學士
- 16) 鍛延鋼の性質に就て
日本特殊鋼合資 石 原 善 雄君
會社技師 工學士 永 澤 清君
- 17) 鑄造鐵材の導磁率に就て
株式會社日立製作所日立工場 野 上 熊 二君
- 18) 鐵、ニツケル、クロム(Fe-Ni-Cr)三元合
金の磁氣的並に電氣的性質に就て
株式會社電熱線 松 永 陽 之 助君
工場技師 工學士
- 19) 防楯鋼の研究
東北帝國大學教授 金屬材 本 多 光 太 郎君
料研究所々長 理學博士

理學士 竹 前 源 藏君

工學士 渡 邊 直 行君

第七回講演大會

- 1) 原料より見たる本邦製鐵の發達及將來の期待

九州帝國大學名譽
教授工學博士 高 莊 吉君

- 2) 洞岡骸炭工場に就て

製鐵所化工部員 綾 部 先君

- 3) 製鐵所の新設鑄鐵爐に就て

製鐵所技師銑鐵部長工學士 鷗 瀨 新 五君

- 4) 鞍山第三高爐の設備概要と作業狀況

南滿洲鐵道株式會社
鞍山製鐵所工學士 淺 輪 三 郎君

- 5) 製鐵所に於ける製鋼法の選定に就て

製鐵所技師製鋼部長工學士 久 保 田 省 三君

- 6) 製鐵所使用の耐火煉瓦に就て

附、獨逸産ノツヅル及ストツパーと製鐵
所製品との比較

製鐵所化工部員 田 口 義 完君

- 7) 製鐵所タール蒸溜工場作業の變遷

製鐵所化工部員 蓮 田 道 明君

- 8) 骸炭爐瓦斯の利用に就て

製鐵所化工部員 大 野 宏君

- 9) 鑄鐵爐の羽口に就いて

釜石鑄山株式會社釜石
鑄業所次長工學士 中 田 義 算君

- 10) 製鐵所に於ける A. I. B. 式粉鐵燒結に就いて

製鐵所銑鐵部員 村 上 敏 雄君

- 11) 黒心可鍛鑄鐵の熱特性に就て

戸畑鑄物株式會社技師
理學博士 菊 田 多 利 男君

- 12) 製鐵所に於けるタルボット製鋼作業に就て

製鐵所技師製鋼
部第三製鋼課長 工學士 松 原 武 三 郎君

- 13) 高周波誘導式電氣爐に就て

住友製鐵所技師 理學士 高 木 弘君

- 14) 低級チタン酸化物の鑄滓に及ぼす影響

東京帝國大學工
學部砂鐵研究室 工學士 垣 内 富 士 雄君

- 15) 砂鐵に含有するバナジウムの還元に就て

三菱製鐵株式會社技師 向 山 幹 夫君

- 16) 二酸化チタンの固形炭素還元による窒化チ

タンの生成に就いて
東京帝國大學工
學部砂鐵研究室 梅 津 七 藏君

- 17) 砂鐵鑄滓の研究

東北帝國大學教授
理學博士 岩 瀬 慶 三君
金屬材料研究所員

- 18) 銑鐵及鋼の硫黃分析法に就て

工學士 福 島 政 治君

吳海軍工廠製鋼部々員 十 河 浩君

- 19) 鋼中の珪酸鹽抽出法に就て

日本製鋼所室蘭工場員 小 林 佐 三 郎君

- 20) 鐵の機械的性質に及ぼす磷の影響に就いて

明治專門學校教授 嘉 村 平 八君

- 21) 粒狀パーライト鋼の衝擊及腐蝕試験に就て

九州帝國大學助教授 工學士 藤 田 守 太 郎君

- 22) 電解製鐵の研究(第一報)

日本電解製鐵所 工學士 花 岡 元 吉君

- 23) 平爐鋼塊の材質的特性

製鐵所技師研究所員 工學士 小 平 勇君

- 24) シートバーミルに就いて

川崎造船所製鐵工場 工學士 宗 田 太 郎君

- 25) シートバーの壓延速度

製鐵所技師 條鋼部々員 川 本 良 行君

- 26) 薄鋼板の壓延に就て

製鐵所技師
鋼板部々員 工學士 須 永 巳 代 次君

- 27) 鈍力鋼の鍍金に就て

製鐵所鋼板部々員 工學士 伊 藤 正 夫君

- 28) ピアノ線に就て

陸軍造兵廠東京工
廠陸軍砲兵大尉 工學士 銅 金 義 一君

- 29) 鋼の一般的燒鈍作用並に之が高度真空中に

於ける特異なる效果に就いて
日本大學工學部教授 工學士 淺 川 勇 吉君

- 30) 窒素硬化用鋼の炭素量と硬化現象との關係

三菱航空機株式會
社名古屋製作所 工學士 石 澤 命 知君

- 31) 高滿掩鋼の性質に及ぼす炭素の影響

東北帝國大學教授 理學博士 村 上 武 次 郎君
日本特殊鋼合
資會社技師 工學士 矢 島 忠 和君

- 32) 耐酸鋼の探究

大阪工業大學助教授 工學士 多 賀 谷 正 義君

- 33) 鍛鍊用マグネシウム合金に就て

陸軍科學研究所技師 工學士 石 田 四 郎君

- 34) タールバラス鋪裝に就て

製鐵所技師化工部副産課長 谷 宗 雄君

- 35) コットレル法に依る製鐵鑄鐵爐瓦斯の除塵

に就いて
三井鑄山株式會社
コットレル組合 理學士 志 賀 潔君

- 36) 鐵鋼の加工又は使用中に生じたる種々の缺

點と其の原因
東京高等工藝學校教授 橋 本 宇 一君

- 37) 鑄造時に於ける中子内部壓力に就いて

戸畑鑄物株式會社技師
理學士 内 藤 逸 策君

- 38) セメントタイトの結晶構造に就いて
 東京帝國大學講師 工學士 志村 繁 隆君
 東北帝國大學總長 理學博士 本多光太郎君
 金屬材料研究所長 理學士 西山善次君
 金屬材料研究所員 理學士 西 山 善 次 君
- 39) クロム鋼の組織成分及變態點に就いて
 東北帝國大學教授 理學博士 村上武次郎君
 東洋双物株式會社 工學士 初田 數 衛君
 以上報告候也
 昭和七年四月六日
 社團法人 日本鐵鋼協會
 會長 理事 工學博士 俵 國 一
- 40) 燒入鋼中に存在する二種の麻留田に就いて

昭和六年度收支決算表

(自昭和六年三月一日—至昭和七年二月末日)

收 入 之 部		支 出 之 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
維持會員會費	4,300'00	會誌印刷費	7,537'59
正會員會費	6,312'05	版類製作費	1,383'88
准會員會費	3,855'70	別刷印刷費	577'25
入會金	116'00	原稿料	554'18
印刷物分讓料	1,074'76	製鐵參考資料印刷費	653'85
廣告料	2,347'67	約束郵便料	504'75
公社債利子	3,154'48	報酬及手當	3,393'50
振替貯金利子	209'81	借室料	1,565'00
銀行預金利子	77'27	會合費	303'47
信託預金利子	293'26	工學會費	200'00
雜收入	17'79	事務費	1,703'20
寄附金	100'00	大會費	1,758'16
		什器費	372'50
		豫備費	382'70
		差引收支殘高	968'76
合 計	21,858'79	合 計	21,858'79

備考 支出の内什器 372圓50 錢及差引收支殘高 968圓76錢合計 1,341圓26錢は資産中に繰入財産目録に計上せり

財 産 目 録

(昭和七年二月末日現在) (増減欄中 +は増 -は減 を示す)

摘 要	昭和六年 二月末日現在	昭和七年 二月末日現在	差引増減
1 圖 書	276'00	276'00	
2 什 器	597'00	969'00	+ 372'50
3 有 價 證 券	42,313'50	47,613'50	
内 譯 額 面 買入價格	内 譯 内 譯	内 譯 内 譯	
東京電燈會社々債第7回丙	¥ 13,000 12,870'00	12,870'00 12,870'00	
同 物上擔保付社債	¥ 1,000 910'00	910'00 910'00	
東京モスリン紡織會社々債第3回波丙	¥ 5,900 5,767'00	5,767'00 5,767'00	
山陽中央水電會社々債第6回ね	¥ 6,000 5,880'00	5,880'00 5,880'00	
京濱電鐵會社々債第4回波	¥ 3,000 2,986'50	2,986'50 2,986'50	
東京市電氣事業公債第4回甲	¥ 5,000 4,300'00	4,300'00 4,300'00	

摘 要	昭和六年 二月末日現在 円	昭和七年 二月末日現在 円	差引増減 円
白山水力電気會社々債ほ號	¥ 10,000 9,900'00	9,900'00	
東京農工債券第百回	¥ 5,000 5,000'00	5,000'00	+ 5,000'00
計	¥ 48,900 47,613'50		
4 會誌發行擔保金 帝國五分利公債甲路	¥ 1,000①	907'00	907'00
5 約束郵便擔保金 帝國五分利公債み號	¥ 150②	292'84	292'84
外に現金	¥ 155		
6 借室料敷金		420'00	351'00
7 振替貯金現在高(基本金を含む)		7,564'45	5,275'17
8 銀行預金		3,443'49	1,440'45
9 信託預金		5,793'04	6,086'30
10 現金		9'03	45'85
合 計		61,916'35	63,257'61
外に服部博士記念資金資産現在高			19,551'21
總 計			82,808'82 15

備考 摘要欄中①印、帝國五分利公債甲路は額面壹千圓買入價格金九百七圓なり

②印、帝國五分利公債み號は額面百圓一枚、五拾圓一枚にて買入價格金百參拾七圓八拾四錢なり

昭和七年度收支豫算

(自昭和七年三月一日——至昭和八年二月末日)

收入之部		支出之部	
科 目	金 額 円	科 目	金 額 円
維持會員會費	4,400'00	會誌印刷費	7,800'00
正會員會費	6,300'00	版類製作費	1,200'00
准會員會費	3,800'00	別刷印刷費	600'00
入會金	100'00	原稿料	550'00
印刷物分讓料	1,000'00	製鐵參考資料印刷費	600'00
廣告料	2,300'00	約束郵便料	550'00
公社債利子	3,300'00	報酬及手當	3,521'00
振替貯金利子	220'00	借室料	1,404'00
銀行預金利子	70'00	會合費	350'00
信託預金利子	305'00	工學會會費	200'00
雜收入	50'00	事務費	2,000'00
		圖書費	20'00
		什器費	50'00
		大會費	2,000'00
		豫備費	1,000'00
合 計	21,845'00	合 計	21,845'00

服部博士記念資金
昭和六年度收支報告
(自昭和六年三月一日—至昭和七年二月末日)

収入之部		金額
科目		円
前年度より繰越高		969.22
公債利子		1,000.00
銀行預金利子		24.82
合 計		1,994.04

支出之部		金額
科目		円
賞牌製作費		255.00
賞金		400.00
賞状用紙容器費		11.40
賞状揮毫料		15.00
受賞者招待費		15.00
證券信託報酬		10.00
郵便費		3.45
交通費		50.00
筆耕料		8.08
雑費		7.40
收支差引 残高(次期へ繰越)		1,268.21
合 計		1,994.04

服部博士記念資金
昭和七年度收支豫算
(自昭和七年三月一日—至昭和八年二月末日)

収入之部		金額
科目		円
前年度より繰越高		1,268.21
公債利子		1,000.00
銀行利子		30.00
合 計		2,298.21

支出之部		金額
科目		円
賞牌製作費		180.00
賞金		700.00
賞状用紙及容器代		11.28
賞状揮毫料		16.00
受賞者招待費		27.00
證券信託報酬		10.00
郵便費		5.00
雑費		10.00
次期繰越金		1,338.93
合 計		2,398.21

服部博士記念資産
資産現在高
(昭和七年二月末日現在)

科目	金額	摘要
	円	
帝國五分利公債(額面貳萬圓)	18,290.00	
三菱銀行特別當座預金	1,268.06	
現金	15	
合 計	19,558.21	

上記之通り報告候也

昭和七年四月六日

社団法人 日本鐵鋼協會

會長 理事 工學博士 俵 國一

議 事

議長(俵君) イ、の昭和六年度會務報告と云ふ事項であります、之に付きましては御手許に印刷したものを差上げてありますからよく御覽置きを願ひたい次第であります、是は例年の通りのことと別に改めて私から御報

告申上げることありませぬのであります、其中で會員の異動は矢張り製鐵鋼業の不景氣の爲に退會者も相當にあり又入會も少しあります爲に、總數に於きましては餘り減りませぬ、些少の會員の數が減少して居る位であります、尙諸君の御援助を得まして益々會員の數を増したいと思つて居る次第であります、此點に就ては御願ひ致します次第であります、それから、の方へ移りまして、昭和6年度收支決算報告と云ふことであります、是も只今の會務報告の下に昭和6年度會計報告として、刷物の終りの方に昭和6年度收支決算表と云ふのが載つて居りますから是で御覽を願ひたいと思ひます、收入之部は此處にありますやうに 21,858 圓 79 錢 支出之部も同じであります、差引殘高が支出之部の最後にあります 968 圓 76 錢ほど残つた次第であります、尙備考にありまするが、支出の内什器 372 圓 50 錢及び差引收支殘高 968 圓 76 錢合計 1,341 圓 26 錢は資産中に繰入れ財産目録に計上したのであります、大體以上の通りであります、此報告に對しましては別に御質問等はございませぬか——別に御質問などがありになりませぬと、次のハ、の項目に移ります、ハ、は昭和七年度收支豫算に關する件であります、其前に刷物としては財産目録がありまして、其次に此昭和七年度收支豫算があります、是も前年度の状況に依りまして組立てまして評議員會の御承認を得た次第であります、それから前の財産目録に付きましては、此議事の項目には書いてありませぬでしたから別に申上げませぬでしたが、此刷物の表に付て御覽下さいと分るのであります、摘要と書いてある所に 1 から 10 の項目に至るものでありまして、即ち圖書、什器、有價證券、會誌發行擔保金、約束郵便擔保金、借室料敷金、振替貯金現在高、銀行預金、信託預金、現金と云ふやうなものが、是は昭和七年の二月未日に調べたものが其處に載つて居りますから是で御覽を願ひたいと思ひます、尙外に服部博士記念資金資産現在高がありますが、是は別の會計になつて居りますから其際に申上げること致します、如何でありますか、是等に付きまして御質問御異議はございませぬか、若しございませぬれば私或は會計の方から申上げること致します——それでは別に御質問等はございませぬやうであります、是は議事の項目には出て居りませぬが、服部博士記念資金昭和六年度收支決算報告、是も總會に報告をしなければなりませぬのであります、此收入之部で 969 圓 22 錢と云ふのは前年度よりの繰越高で、公債利子が 1,000 圓、是は 20,000 圓の公債を買つてあり

ますので其利子であります、それから銀行預金利子が 24 圓 82 錢、それから支出之部は其處に色々の項目に伴ふ支出が書いてありますから、此表を御覽願ふことに致しまして、差引收支の殘高は 1,268 圓 21 錢と云ふものが翌年度へ繰越すことになつて居るのであります、それから服部博士記念資金の資産現在高であります、帝國五分利公債、是は額面 2 萬圓で其金額は 1 萬 8,290 圓であります、それから三菱銀行の特別當座預金として預けてありますのが 1,268 圓 06 錢、現金が 15 錢、合計 1 萬 9,558 圓 21 錢残つて居るのであります、それから次に服部博士記念資金の昭和 7 年度收支豫算であります、是は本年度に使はふと云ふのであります、御報告を申上げますことは是だけでありませぬ、別に御質疑等がございませぬと、是は全部御承認を願つたと云ふことにして置きますが如何でございませぬか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(俵國一君) 左様いたしますと、次に二の項目に移ります、任期満了役員、會長、理事、評議員半数改選(投票、開票)であります、豫て會員の方に御通知申上げて置きましたので段々投票も頂きましたが、尙投票洩れの御方は此處に用紙もありますし投票函もありますから投票せられむことを御願ひする次第であります、之を開票いたしますのに相當に時間も掛かりますから、誰方かに御願ひを致しまして立會つて開票して頂きまして後程御報告を願ひたいと思ひます、別に御意見はございませぬか——それでは誰方かに立會つて頂きたいと思ひます、今日は加藤さん御出でになりますれば何時もの通り御願ひ致したいと思ひます、御出でになりますかそれでは會長から御指名いたしますが、別に御異議ございませぬか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(俵國一君) それでは會長から指名いたします、二人の方に御願ひすることになります、それでは石川君と三島君に御願ひ致します、それから投票洩れの方はこちらに函がありますから何卒此際御願ひ致したいと思ひます、總會の主なる仕事は此會報に御報告申上げたわけで殆ど終りましたから、是から總會の他の別の仕事と致しまして、服部賞牌並服部賞金贈呈式を行ひます。

服部賞牌並服部賞金贈呈式

昭和七年度

服部賞牌並賞金受領者推薦理由書

受賞者氏名

服部牌賞 中田義算君
(五十音順)

服部賞金 岡村琢三君
同 志村繁隆君
同 武田修三君
同 田中太一君
同 玉置正一君
同 東馬三郎君
同 松木又三郎君

服部賞牌受領者(第七條)

釜石鑛業所工務長 工學士 中田義算君
理由

同氏は明治四十二年七月以降釜石鑛山田中製鐵所に於て専ら製鉄作業に従事し、大正五年七月支那漢冶萍公司に入職し故大島道太郎博士の指導の下に大冶新製鐵所の設計建設に關與し其間大正七年より一ヶ年間製鐵事業見學の爲め米國に滞在し大正九年八月再び釜石に戻り現今に至る迄主として高爐の作業に盡瘁せり。

爾來釜石に於て従前排棄せられたる粉鑛利用、生磁鐵鑛の使用等先人末着手の種々の考案を實施し製鉄經濟上に利する所甚少なからず就中目下の第八、第九の兩高爐は當初設計、120 噸、大正九年上半年迄の實績一日平均 65 噸以内なりしものを漸次改良して 300 噸以上の現狀に導きたるは皆氏が研究努力の結果たる薄壁朝顔の成功羽口の改良乃至操業法の改革等に因るもの多く其功績の顯著なる本邦製鉄事業の進歩發達に貢獻したること多大なりと謂ふべく表彰の價値充分なりと認む

(履歷書及「産額を四倍乃至六倍に増大し得たる高爐改擴に就て」を添付しあり)

服部賞金受領者(第八條)

製鐵所技師 岡村琢三君

理由

同氏は大正二年以來製鐵所骸炭製造作業に従事し今日に及べるが其間同所コツパース骸炭爐及び黒田式骸炭爐の建設を分擔し昭和二年製鐵所に於て計畫せられたる洞岡製鉄工場の骸炭爐及附屬設備の建設に就ては設計、建設、創業共に同氏の努力による所最多大なり、素同骸炭工場の設計は工場の配置、爐の設計、高爐瓦斯利用裝置、瓦

斯燃燒利用裝置、消火設備及押出機等に於て本邦として最初の試みを敢行せるもの多く従つて同所既往の實際的經驗と歐米諸會社の設計の粹を抜き之が融合統一を圖りたる點に於て主任技術者として同氏多大の苦心の存する所更に贅言を要せざるべし。

而して實際の建設工事に於ては軟弱なる地盤上の基礎施工、材料の按配、其他諸工事の監督等に於て幾多の障礙に遭遇せしも同氏の努力能く之を排し當初計畫通りの期間と經費とに違算を來たさしむる事なく此の大工場の建設を完了せるは同所諸方面の技術者の援助に依るは勿論なりと雖も又職として同氏の盡瘁に由るものと云はざるべからず。

加之同工場操業開始に際しては同氏自ら指導の任に立ち順調の経過を以て今日に至り既に當初計畫に基く生産費低下の目的を達し得たるは有終の美を濟せるものと云ふべし。

前述骸炭爐の設計と操業との優良なる成績は單に製鐵所の事業上に貢獻する所大なるに止らず本邦製鐵事業に於て内外炭を使用する骸炭製造技術に於て劃期的業績を印したるものにして廣く本邦斯道の發達に資する所甚大なるものと云はざるべからず。

依つて表彰の資格ある者と認む

服部賞金受領者(第八條)

工學博士 志村繁隆君

理由

志村君は大正十三年三月東京帝國大學工學部冶金學科卒業後直ちに大學院に入學と共に先づ物理學特に X 線の物理學の基礎的研究に従事し理學部物理學教室に於て二年間講義及實驗を履修し傍ら翌十四年夏頃より諸金屬間化合物の結晶解析を開始せり。

其第一としてセメントタイトの研究に着手し滿六ヶ年を費して完成し昭和六年夏之を發表せり、本論文に於ては先づセメントタイトの性能及び從來諸學者に依る研究の結果を述べたり即ちセメントタイトの結晶は肉眼的の大きに成長せざるものなるに一旦マンガンを含むときは其結晶は相當の大きに發達し諸種の X 線實驗に適すべく且、マンガンと鐵とは互に其の原子量相似し、各炭化物は其炭素量も兩者相等しく結晶構造も互に類似のものなると並に其格子常數單位格子内の分子數等既に公表せられたるものもあるも其空間群類及原子配列等に至りては何等決定せるものなく従て結晶構造の研究に關しては未だ手

を染めし者なき状態なりと説く次に実験方法としてはブラグ法 ラウエ法デバイ、シエラー法及びゼーマン法を適宜に活用し精密なる注意を以て多数の実験を行ひたり、特に本実験に使用せる。X線管球、X線分光計(X-Ray Spectrometer) X線分光寫真機(X-Ray Spectrograph)は總て志村君自身の考案設計に依て完成せるものにして外國品を遙に凌ぐ優良國産品なり斯くしてセメンタイトの結晶構造を決定し進んで炭素が鐵中に於ける状態を明にし鋼の焼入及焼戻の機構に精確なる解決を興へたるものなり。

○此の他セメンタイトの研究と同時に加工合金のX線的研究及びX線に依る定量分析法の研究等を續け以て今日に至れり。

服部賞金受領者(第八條)

工學博士 武田 修 三 君

理 由

一、タングステン鋼は工業上頗る重要なるものなれば既に多くの研究あれども其の多くは狭き組成範囲のものに就いて行ひたるものにしてタングステン鋼に起る複雑なる各種の變化をよく説明すること能はず、因て武田君は鐵タングステン炭素の廣き組成範囲に亘り系統的に物理冶金學的研究をなし六年有餘を費して本系に起る諸現象を解決し次の五論文として發表せり。

1. タングステン鋼に於ける針狀地鐵の生成に就て (邦文)

種々の組成のタングステン鋼に就て針狀地鐵生成の條件を決定し、針狀地鐵の組織と麻留田組織との異同及針狀地鐵生成の機構を論述せり。

2. 鐵-タングステン系平衡状態圖(英文)

鐵-タングステン系平衡状態圖に於て從來未解決なりし諸點を追究し本系に存在する化合物の組成は Fe_3W_2 なること、此化合物と δ 相との共晶點はタングステン33%なること、及此の化合物を生ずべき包晶反應の起る範圍はタングステン43%以上なることを明にし、從來の状態圖を改訂せり。

3. タングステン鋼に現はる γ 炭化物に就て(英文)

先づ顯微鏡的に研究して複炭化物の存在を明にし、其組成は電解に由て分離し Fe_3W_2C に近似せることを確かめ、又X線分析に由て面心立方晶系に屬する三元固溶體なることを明にせり。

猶此の炭化物は低炭素合金に於ては安定なるが高炭素合金に於ては不安定にして焼鈍に由て容易に安定なる炭化物 W_2C に變化すること又セメンタイト Fe_3C はタングステンを溶解して固溶體を生ずることを明にせり。

4. タングステン鋼の變態及組織に就て(英文)

タングステン16%以下炭素1.5%以下のタングステン鋼に就き熱膨脹測定及磁氣分析に變態點を測定し、更に顯微鏡的研究に由て各變態の性質を推定し、タングステン鋼の固態に於ける多くの断面状態圖をつくり之を總合して平衡状態圖を構成し、タングステン鋼に起る種々の變態及組織の變化を明にせり。

5. 鐵-タングステン炭素系平衡状態圖(英文)

炭素4%以下、タングステン80%以下の合金に就て主として熱分析及顯微鏡的研究をなし、専ら其凝固範圍に於ける變化を研究し、本系平衡状態を構成せる經過を述べ之に由て本系合金に起る種々の複雑なる變化を説明し、又各組成範囲に就ての凝固の過程を詳述せり。

以上要するにタングステン鋼には安定相及不安定相が錯綜して現はれ其組成及熱處理による諸變化は頗る複雑にして從來其の解決に苦しみたる點多かりしが武田君は鐵-タングステン-炭素三元系の廣き組成範囲に亘りて各種の方面より系統的に研究をなし、其複雑なる平衡關係を明にし種々の新事實を發見しタングステン鋼に起る諸變化を明瞭に解決したるものにして、同君の研究はタングステン鋼の製造、處理、加工の上に頗る重要なるものたるは勿論、學術上亦頗る有益なるものなり。

(印刷物 1. 2. 3. 4. 5. 添付あり)

服部賞金受領者(第八條)

製鐵所技師 田 中 太 一 君

理 由

同氏は明治37年製鐵所に就職以來専らロール孔型の製作に従事し製鐵所に於ける各種の孔型殆んど一として同氏の手を経ざるものなし。

元來ロール孔型製作の事たる理論と實際との調和の上に立つ全く特殊の技術なるを以て其修得甚だ困難にして特に製鐵所の如き複雑なる各種形鋼に對する孔型に於て然るものなり。

然るに同氏の努力よく各種の孔型の實際に通曉し以て鋼材壓延作業に對し適當のロールを供給することを得壓延作業の發展に貢獻する事大なり蓋し同氏の技能の今日ある素より先輩の誘掖指導によること多かるべきも又同氏の拮据數10年間一意専心斯道に精進したるに依らざるばならず。

今其技術の詳細及び業績の一々に就て詳述を省略するも同氏の業績は充分表彰に値するものと認む。

(履歷書添付あり)

服部賞金受領者(第八條)

日本特殊鋼合資會社技師 玉 置 正 一 君

理由

同氏は明治44年東京物理學校卒業同年第一高等學校物理學教室助手として故須藤、山川兩教授の指導を受け、次で愛知縣立第二中學校の教諭となり、大正6年現今の東北帝國大學金屬材料研究所の前身たる臨時理化學研究所が設置さるゝや所長本多博士が専ら鐵及鋼の物理的冶金研究に没頭せらるゝに當り博士の門下に走り研究補助の任に當り三ヶ年餘博士の指導薰陶を受け旁ら東北帝國大學機械工學科の設置さるゝや其の學生物理實驗の指導を依頼せられ、大正9年日本特殊鋼合資會社の技師とし招かれ爾來十有餘年間専ら鋼の物理冶金の原理を工業的實施方面に活用し鋼の改良進歩を計り且漸新特色ある特殊鋼の發明を完成し同社の特許となるもの十種に及び就中F. W. 自硬性磁石鋼の如きはそれが純國産的なるを、燒割れ變形のなき事と磁性優秀なる點に於て實用 マグネットとして著名なるものにして種々の公の表彰を受け居れり。

又ゲージ用鋼は鋼の焼入れ後のマルテン化により免れ難き膨脹變形を極端に微小ならしめたるを特徴とし最近の特許品たる強韌特殊鋼に至つては從來のニッケルクローム鋼に期待し得ざりし強韌性を與へたるものにして大に將來を囑目せらるゝ新特殊鋼なり氏は又高温度捩り試験機を考案し之れに依り焼入れ鋼が熱戻しの過程中に於て小なる荷重の下に永久變形を起す事に注意し其の理を明かにし之れを焼入れ鋼の曲り壓延法に應用實施し偉大なる効果を擧げつゝあり、其他商工省工業研究獎勵金の下附を得て基礎的研究を遂げたるものを工業的に實施する同省の主旨の下に研究を完成したるもの現今まで十七項目に及びたり要するに氏の眞摯なる研究は物理的冶金は立脚したる工業的實施應用に貢献したるもの多く本邦特殊鋼の進歩發達に對し功績顯著なるを以て服部賞金受領者として茲に氏を推薦す。

服部賞金受領者(第八條)

工學士 東馬三郎君

理由

君は明治四十三年京都帝國大學機械工學科を卒業し直ちに株式會社日本製鋼所に入所し製鋼工場に勤務し明治四十五年英國に斯道研究のため留學を命ぜられ、シエフキールド大學に於て鐵冶金學を修め實地見學をヴキツカース工場に了へ大正4年歸朝實驗室を擔當し鋼の組織及造塊法の研究を續けたりしが大正6年日本製鋼所を辭し故山内海軍中將の後援を得て京都大學探礦冶金工學科庭に壹基の電氣爐を築造し齋藤大吉博士の指導の下に砂鐵電氣製鋼の實地研究をなしたりしが山内中將の物故に遭ひ遂に藤田組に入社し青森電線所所長及藤田工業株式會社廣田製鋼所を主管し専ら電氣製鋼に従事したりしが當時我國産のモリブデン鑛石は主として獨逸國に輸出せられ之を鐵モリブデン合金として我國に逆輸入せられ居る狀況なりしを以て其輸入防遏の目的を以て大正十五年二月大垣市に大垣電氣冶金工業所及昭和3年4月金澤分工場を創立自營之が製作を創め幾多の困難に捷ち遂に外國品に優る製品の産出に成功し現時我國内需要の全量を供給し其目的を達し我邦兵器用高級鋼製造に一大貢獻をなしたり。

且つフェロマンガ、フェロクローム、フェロシリコン

等の製造に従事し傍ら昭和二年より約三年間日本鋼管株式會社伏木工場を指導し同工場の鐵合金の製造を完成せられたり。

尙金屬シリコンの製造に成功したるは其研究努力の成果にして我邦隨一の鐵合金製造の權威者と稱するも過言にあらざる其製造せる鐵合金の總量は昭和6年末迄に約7,700 噸に上れり。

上述兵器製造上高級鋼の製作に對する貢獻と相俟つて其功績最も顯著にして表彰に値するものと認む。

服部賞金受領者(第八條)

製鐵所宿老 松本又二郎君

理由

同氏は明治三十四年平爐職として製鐵所に入職以來三十有餘年専ら平爐製鋼作業に従事せり、此間斯道研究のため選ばれて獨逸國に派遣せられたるが歸朝後は同所第二製鋼工場に在つて鑛石法及び合併製鋼法の研究に没頭し同所該製鋼操業の今日ある同氏の實際的研究の努力による所極めて大なり同氏資性濃厚加ふるに仕事の上に熱烈なる研究心を有し數十年間持續今日尙倦む所を知らず、是を以て能く實際技術の上に於て部下職工を指導し其技術の向上を奮勵すを以て優良職工にして同氏の指導に依らざるもの少し特に民間新設製鋼諸會社の實習職工にして製鐵所に於て其技を練磨せるもの多くは同氏の薰陶を受けざる者なしと云ふも過言にあらざる之を要するに製鐵所に於ける製鋼作業に對し實地上に多大の貢獻を爲したるのみならず又間接に民間諸工場の平爐作業に對しても貢獻せる所尠からず。

製鐵所は曩に宿老を命じ所内に於て特に奏任官の待遇を與へ模範職工として表彰したり。

以上の業績を以て表彰するに資格あるものと認む。

(履歷書添付あり)

○會長(倭國一君) 此賞牌及び賞金を贈呈いたしますに付きましての式は皆様の御承知の通り昨年第一回の式を擧げまして本年は第二回目であります、前會長服部漸博士の記念の爲の資金がありますが、是は只今會計報告の際に御報告した通りであります、之を資金としまして本會に於て資金委員が出來て居るのであります、而して各推薦者の御出しになつた功勞者に付きまして慎重審議に審査いたしました、此賞牌並に賞金を差上げることに決定いたしましたのであります、本日只今から賞牌及び賞金を差上げます方々に付きましての服部賞牌並に賞金受領候補者の推薦理由に付きましては、是も刷物にして御手許に差上げて置きました書類で御分りの通りであります、賞牌に付きましては釜石鑛業所工務長の 中田義算君であります、同君は學窓を出られまして以來釜石に居られまして、其間米國、支那等にも行かれましたが専ら高爐の作業に盡瘁せられまして著しき改善を遂げられ、日本に取りましてのみならず諸外國の例を見ましても恥しからぬ否一步進んだ點を認めることが出来る成績を擧げて居られるのであります、誠に二十年以上に亙つて本邦の製鐵事業の進歩發達に貢獻したことが多大でありまして、又各種鑛石の改良に付きまして斯の如く努力されたと云ふことは誠に立派な業績であります、本會の委員會に於

きましても誠に適當な方であると云ふので此處に賞牌を差上げることに致したのであります、又服部賞金の受領者に付きましたは七名の方がおありになります、何れも皆立派な功績を擧げられ又多大の研究努力をなされた方々のみであります、岡村琢三君に付しましては八幡製鐵所の 骸炭製造の業務に従事せられて多年同所で努力されて居りますのみならず、殊に其間骸炭爐の色々な設備其他燥業などに付て優秀なる結果を得ましたことを認めたのであります、又志村繁隆君はX線の研究をされましてセメントタイトの分子構造等に付きましての立派な研究をなされたのであります、是亦大變御立派な御研究を認められた次第であります、又武田修三君はタングステン鋼に付きまして度々有益な論文を御出しになり、此推薦書にありますやうに、先づ「タングステン鋼に於ける針狀地鐵の生成に就て」(邦文)、「鐵—タングステン系平衡状態圖」(英文)、「タングステン鋼に現はるゝ炭化物に就て」(英文)、「タングステン鋼の變態及組織に就て」(英文)、「鐵—タングステン—炭素系平衡状態圖」(英文)、等の夫々有益なる論文を多年に跨がつて御出しになりましたことは誠に立派な御研究であると認められた次第でありまして、委員會と致しましては受領者に推薦した次第であります、又田中太一君は長年製鐵所のロールの孔型の御研究をなさつた方で、難しい此仕事に付きまして凡ゆる、種類の形狀を要する場合、其場合に色々なロールの孔型を御研究なさつて種々貢獻をなされた田中君の功勞に付て表彰することになつたのであります、日本に斯かる立派な研究が出来たのは實に同君の御蔭と思つて居るのであります、又玉置正一君は種々御研究の結果、新しい特殊鋼の發明を完成し例へばF.W.の自硬性磁石鋼、其他種々の鋼を發明なさつて日本に於て特殊鋼の優良なる製品を作るに至りましたことは實に學問のみならず長い間の實地の功勞に依ることが多いのであります、又東馬三郎君は、此方は元々機械の方をやられたのであります、其後鐵冶金の方をおやりになり、それから御自分で大垣に電氣冶金工業所を設けられて、日本に於きまして初めての特殊の高級鋼及び鐵合金を御作りになりまして、御自分が御成功なされたのみならず日本の兵器を製造いたします場合に外國製のものよりも國産の合金所謂鐵モリブデン合金を以てよく難しい兵器や何かに多大の貢獻をなされたことは實に同氏の御努力の結果と思はれるのであります、又其他御自分の工場のみならず日本鋼管會社の仕事に付きましても同氏の立派な御研究と御努力の結果鐵合金の製造を完成せられたと云ふ其功勞を認められたのであります、又製鐵所の松木又二郎君は製鐵所で平爐に付きまして、最初からずつと御研究になり、唯技術上のみならず製鐵所の作業に従事されて居る方が指導を受けるばかりでなく、松木又二郎君の人格並に御熱心な御努力等に刺激されまして、平爐工

並に製鋼技術者の非常なる奮發を促がし得たことは皆松木君の御蔭を蒙りました結果でありまして、此多年の御努力に對しまして委員會は推薦を致した次第であります、何れも誠に御立派な方々で、是等の方々に對しまして服部賞牌並に服部賞金を差上げますことは、會長と致しまして最も愉快に感じ且つ光榮な仕事であると存するのであります、それでは是より服部賞牌及び服部賞金を差上げることに致します。

中田 義算君 服部賞牌受領 (一同拍手)
岡村 琢三君 服部賞金受領 (一同拍手)
志村 繁隆君 服部賞金受領 (一同拍手)
武田 修三君 服部賞金受領 (一同拍手)
田中 太一君 服部賞金受領 (一同拍手)
玉置 正一君 服部賞金受領 (一同拍手)
東馬 三郎君 服部賞金受領 (一同拍手)
松木又二郎君 服部賞金受領 (一同拍手)

○會長(俵國一君) 是で服部賞牌並賞金の贈呈式は終りました、それから先程の選舉はまだ出来ませぬから後程申上げること致します、それから講演會は矢張り午後二時に時間通り開會いたしたいと思つて居りますからそれ迄どうか御休憩を願ひます、其前に選舉の報告が出来ますれば、或は二時の講演會を開きます前に總會の續きと致しまして開票の結果を御報告いたすことに致したいと思ひます——只今開票の結果が分りましたから是から御報告を致します、それでは三島君一つ御願ひ致します。

○三島徳七君 それでは私から開票の結果を御報告致しますが次點者も御座いますけれども省略して當選者だけを申し上げます。

會 長

河 村 曉君

理 事

俵 國一君 水谷 叔彦君 渡邊 三郎君
松下 長久君

評 議 員 (イロ順)

岩瀬 徳藏君 井上 克巳君 井口庄之助君
濱 田 彪君 西村小次郎君 大塚 榮吉君
小倉 正恒君 小田切延壽君 加 藤 榮君
門野重九郎君 川上 義弘君 横堀治三郎君
横田 文吉君 田宮嘉右衛門君 種子田右八郎君
中井 勵作君 永田 五郎君 永安晋次郎君
村上武次郎君 梅根常三郎君 久保田省三君
工藤 治人君 黒田 泰造君 山下 興家君
牧 田 環君 伍堂 卓雄君 齋藤 大吉君
寒川 恒貞君 吉川 晴十君 澁澤 正雄君

以上の方々が御當選でございます(拍手)

○會長(俵國一君) それでは是で總會を終ることに致します(拍手)

午後1時35分散會